

幼児・低学年からの
算数・国語
能力開発・理科実験

幼児教材セット



と代数と幾何の2つになります。この2つはかなり違います。代数は算数の基礎のことはしっかりと身につけて、そのことばからイメージを瞬時に浮かべることが重要ですが、幾何については図形に対する感性を育てることが一番大切です。

全国学力テストの結果が今年も8月下旬に公表されましたが、都道府県別ランキングのほか、公立・私立・国立の平均点が公表されているのをご存じでしょうか。小6の算数Aの正答率は公立78、私立89、国立90で、大きく差が開いています。国語Aの正答率は公立74、私立83、国立85で、10ポイント以上の差があります。

なぜこのような大きな差が出てくるのでしょうか。それは私立・国立小学校に入るためには受験をしなければならず、そのための就学前学習を

しているお子さんは基礎力がしっかりとれているために、6年生になったときには大きく学力が伸びているからです。

先ほど小学校受験対策を行っていると申し上げましたが、それは具体的に「国立小学校受験クラス」です。その背景にあるのは「私立小学

どんな準備学習が必要なのか

全国学力テストの正答率はたしかに公立より国立・私立の方が圧倒的に高いのですが、1問だけ公立の方が正答率が高かった問題（平成28年）があります。「直角三角形が丸くつながらると、どんな形になるか」という問題です。最近わかった理由の一つが、小学校受験をする子どもたちは、図形の問題に関しては受験直前に丸暗記していることが多く、その仕組みがわからないままになっているということです。やはりきちんと学習していない分野は学力が伸びないわけ、そのこと自体ものすごくエビデンスだと思っています。しかし、今までこのことを指摘した人は誰もおりません。

弊社の教材は、図形的感性を育てることに力を入れています。説明会のとき、塾の先生方に基本の4つのピースを使い切って三角形を作るなどの体験学習をしていただくのです

が、皆さん結構苦労しています。ところが幼稚園年長のお子さんでも、遊び感覚でいつも学習している子は、あつという間に作ってしまいます。図形の課題は先生が板書して説明するだけでは、お子さんはわかった気になるだけで、本当にはわかっていないのです。図形学習は、初期の段階で指先を使いながらリアルに学習することが重要なのです。

また、小学校1年生で出てくる算数の用語は、驚くことに200以上にもなります。「多い」「少ない」「広い」「狭い」など、1年生にこのような不確かなことば——言い換えると「数の概念」になります。それらを身につけさせることは、正直言ってとても難しくハードルが高いのです。しかしこれを就学前にしっかりと時間をかけて学んでおくと、小学校に入ってからスムーズに学習できるだけ

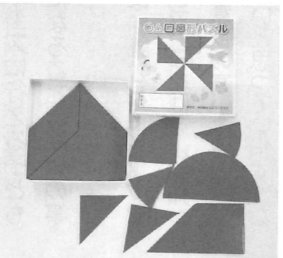
読者プレゼント

最後までお読みいただきありがとうございます。図形学習に興味をお持ちの先生に弊社のイベント用パズル（紙製）をプレゼントします（先着100名。10月30日まで受け付け）。

以下からお申し込みいただけます（メールでの申し込みになります）。



プレゼントの図形パズル



私たちの「幼児教育」とは、
教科学習を始めるための準備教育
これをやっておけば、
小学校入学後に学力が大きくアップ

株式会社 エジソンクラブ
新村 一臣 社長



親の愛情と子どものあまえによって育まれる自己肯定感

弊社が考える幼児教育は、いわゆる早期教育とは一線を画していて、それをわかりやすいように「ファミリア」型の図に表してみました。

当然のことながら、乳幼児期は子どもが親にあまえ、親が子どもに愛情を注ぎ、親子の心が響き合うことが一番大切なことです。これがあれば、子どもは「自分は自分のままでいいんだ」という自己肯定感を持つことができます。自分を信頼できるからこそ、行動できるのです。

でもだからといって、すべてのご家庭がそのようにできるかというと、難しいと言わざるを得ませ

ん。近年共働きのご家庭が急激に増えているのはご存知の通りですが、それでも同居している祖父母が元気で、子どもと関わっているのであればカバーできます。しかし現実には核家族化は進む一方です。そこをカバーするためには様々な育児サービースが必要であることも確かです。

弊社は小学校受験対策に取り組んで2年目になりますが、先日教室が始まる前に生徒のお父さんから相談を受けました。そのお子さんは4人兄弟の長男で、教室ではおとなしく従順なのですが、家では結構やんちゃで困っているとのことでした。お子さんが4人であれば、どうしてもご両親の愛情も分散してしまうので、十分に親御さんに甘えていないのかもしれないと思い、「お

就学前の学習が必要な理由

子どもにとってはベタベタとした愛情も必要ですから、それを意識してあげてはいいかですか？」とアドバイ

スしました。するとお父さんの表情がパツと明るくなって、「やってみます！」と笑顔でおっしゃっていました。

幼児といっても就学前、幼稚園の年長くらいになれば、基本的なしつけのほか、情操の育成、体づくり、コミュニケーション、知育が必要で、それぞれとても大切なのは言うまでもありませんが、私たちの幼児教育はその中でも知育、具体的には就学前学習に特化しております。なぜなら、知育以外のものは本を読んだりすれば実行できますが、知育の部分は本

学びへのソフトランディング=就学前の学習の目的

